

時代の先駆け

4代目

プリウス 誕生

新ハイブリッドシステム 40.8 km/ℓ の低燃費

JC08 モード走行燃費
Eグレード



世界初の量産ハイブリッド車として歴史を刻んだプリウスが、4代目モデルへと生まれ変わった。斬新でかっこいいスタイル、クルマづくりの改革であるTNGA(トヨタ・ニュー・グローバル・アーキテクチャー)の全面採用、効率を高めたハイブリッドシステムによる低燃費の達成など、その見どころは尽きない。環境性能の高さももちろん、低重心化によりクルマを思う通りに操れる楽しさを倍増させ、さらに先進安全性能も最高レベルで実現。トヨタの持つ最新テクノロジーが惜しげもなく投入され、より多くの人々がその先進性に触れることができるクルマとなった新型プリウス。日本車の歴史に新たな1ページを記すクルマとなることは間違いないだろう。

低重心でカッコイイ、室内空間も確保

雪道も安心! 新開発 E-Four (電気式4輪駆動方式) も設定



「もっといいクルマづくり」のための TNGA (Toyota New Global Architecture) 第1号車

文/田畑 修(モータージャーナリスト) 写真/興陽 圭之



発行所
日刊自動車新聞社
東京都港区芝大門1丁目10番11号
芝大門センタービル3階
電話 東京 (03) 5777-2351 代表

トヨタ
新型
プリウス
特集号



プリウスの歴史 ハイブリッドの歩み



初代



2代目



3代目

世界初の量産ハイブリッド車である初代プリウスは1997年12月にデビュー。ガソリンエンジンと電動モーターの相互制御という難問を見事にクリアし、画期的な低燃費と低排ガスを実現した次世代車として世界中から注目された。2003年9月には2代目モデルが登場し、一段と環境性能を高めただけでなく、クルマとしての実用性を向上し販売台数も増加。ハイブリッド車をより身近なものとした。そして2009年5月に登場した3代目モデルは内外装のクオリティを高め、環境性能に加えてワンランク上の走行性能を実現したクルマとしてより多くの人に支持される。グローバルモデルとしての評価も確固たるものとし、2015年には世界累計販売が350万台を超えている。また、プリウスに搭載されたハイブリッドシステムはトヨタ車に限らず多くのクルマに採用され、高い技術的評価を得ている。



ITS専用周波数による路車間・車車間通信を活用した「ITS Connect」を設定。



ウェルキャブで、だれにでもやさしく

簡単操作で助手席を回転させ、座面を傾けることでスムーズな乗り降りを実現した「助手席回転チルトシート車」を設定し、2016年3月10日に発売する。また、フレンドマチック取付専用車も設定し、4月1日に発売予定だ。

主要諸元表	A プレミアム		A		S		E
	"ツーリングセレクション"		"ツーリングセレクション"		"ツーリングセレクション"		
駆動方式			2WD / E-Four				2WD
車両重量 (kg)	1,390 [1,460]	1,380 [1,450]	1,370 [1,450]	1,360 [1,440]	1,370 [1,440]	1,360 [1,430]	1,310
最小回転半径 (m)	5.4	5.1	5.4	5.1	5.4	5.1	5.1
燃料消費率 JC08 モード (km/ℓ)	37.2 [34.0]						40.8
エンジン型式	2ZR-FXE						
エンジン総排気量 (ℓ)	1,797						
エンジン種類 / 使用燃料	水冷直列4気筒 DOHC / 無鉛レギュラーガソリン						
エンジン最高出力 (ネット) kW (PS) / rpm	72 (98) / 5,200						
エンジン最大トルク (ネット) N・m (kgf・m) / rpm	142 (14.5) / 3,600						
燃料タンク容量 (ℓ)	43						38
フロントモーター型式 / 種類 / 最高出力 kW (PS) / 最大トルク N・m (kgf・m)	1 NM / 交流同期電動機 / 53 (72) / 163 (16.6)						
リアモーター型式 / 種類 / 最高出力 kW (PS) / 最大トルク N・m (kgf・m)	[1 MM / 交流誘導電動機 / 5.3 (7.2) / 55 (5.6)]						
動力用主電池種類	リチウムイオン電池 [ニッケル水素電池]				ニッケル水素電池		リチウムイオン電池
個数 / 接続方式 / 容量 (Ah)	56 [28] / 直列 / 3.6 [6.5]				28 / 直列 / 6.5		56 / 直列 / 3.6
全長 × 全幅 × 全高 (mm)	4,540 × 1,760 × 1,470 [1,475]						4,540 × 1,760 × 1,470
ホイールベース (mm)	2,700						
トレッド フロント / リア (mm)	1,510 / 1,520	1,530 / 1,540	1,510 / 1,520	1,530 / 1,540	1,510 / 1,520	1,530 / 1,540	1,530 / 1,540
最低地上高 (mm)	130 [135]						130
室内 長 × 幅 × 高 (mm)	2,110 × 1,490 × 1,195						
乗車定員 (名)	5						
ステアリング	ラック & ピニオン						
サスペンション フロント / リア	ストラット式コイルスプリング (スタビライザー付) / ダブルウィッシュボーン式コイルスプリング (スタビライザー付 * 1)						
ブレーキ フロント / リア	ベンチレーテッドディスク / ディスク						
トランスミッション	電気式無段変速機						
タイヤ	215/45R17	195/65R15	215/45R17	195/65R15	215/45R17	195/65R15	195/65R15

[] は E-Four です。* 1 は E を除く全車に標準装備。オプション装着により数値が変わります。燃料消費率は、定められた試験条件のもとでの値です。使用環境、運転方法により異なります。詳しくは販売店にお問い合わせください。

プリウス



Engineer's Voice

開発者の声

トヨタ自動車
製品企画本部
チーフエンジニア
豊島 浩二さん



まずスタイリングではヘッドランプなどのデザインに加え、ボンネットフードの低さを確認していただけたと思います。乗り込めばその視界のよさを実感できるでしょうし、ぜひ試乗して低重心が生み出す優れた操縦性を味わってみてください。さらにドアの開閉音とか、フィット感とホールド感に優れたシート、ドアを閉めた室内の静けさなど、五感に訴える部分にこだわって仕上げています。開発や生産に携わった一人ひとりが改善に努め、「もっといいクルマづくり」を目指して完成させた新型プリウスの進化を、より多くの方に知っていただけたら嬉しいです。

ボディカラーと室内空間



ドアのしまり音にも工夫



長時間ドライブでも疲れない居心地

新型プリウスのスタイリングが一段と映えるボディカラーを新たに設定。新設定のダークブルーマイカメタリックやグレーメタリックに加え、よりビビッドな新開発のカラーも用意され、存在感のあるエモーショナルレッド、遮熱機能も備えたサーモテクトライムグリーン、シャープな質感のスティールブロンズメタリックが新型プリウスのスタイルを際立たせる。室内空間に目を移すと、低重心化によりヒップポイントを下げた走行時の安定感を確保する一方で、前席、後席ともにヘッドスペースの余裕度は増している。さらに駆動用バッテリーを後席下へ移したことでラゲッジ容量が拡大している点も見逃せない。



先進性を表現する9色のボディカラー

E-Four (電気式4輪駆動方式) — 雪道での安定した走り

新たにラインアップされた4WD車は、後輪を駆動する電動モーターを持つE-Fourを採用。常に走行状態をチェックし、雪道など滑りやすい路面では後輪を駆動させて走行安定性を確保。その駆動力配分状況はマルチディスプレイに表示される。リアインバーターの制御により駆動力は最適制御され、プリウスの優れた燃費性能を損なうことなく四輪駆動を実現したところにも注目したい。また、後輪の駆動システム自体をコンパクトに仕上げたことで室内空間やラゲッジルーム容量への影響も最小限に抑え、2WDのスペアタイヤ装着車と同等のラゲッジスペースを確保している。



先進安全装備 — トヨタセーフティセンスP (A、Aプレミアムに標準装備)



単眼カメラ

トヨタの先進安全装備をパッケージ化した「トヨタ・セーフティセンスP」を採用。単眼カメラとミリ波レーダーという2種類の「眼」で常に前方を監視し、歩行者や車両への接近を感知してブレーキングをアシストするとともに、万一の場合はプリクラッシュブレーキを作動させて衝突回避または被害軽減をサポートしてくれる。また、レーダークルーズコントロールにより前車に追従して安全な走行を支援するに加え、車線からはみ出した場合にブザーとディスプレイで警報を発するレーンディパーチャーアラートも装備。さらにハイビームとロービームを自動で切り換えて歩行者などの早期発見をサポートするオートマチックハイビームも備えるなど、安全運転を多面的にサポートしてくれる。

基本性能 — 高剛性ボディ、空力性能、静粛性

TNGAをベースに設計されたボディ、シャシーの完成度の高さも新型プリウスの特徴のひとつだ。骨格構造を見直すとともにボディ接着剤などの採用でボディ剛性は先代モデルに比べて60%もアップ。さらにリアサスペンションをダブルウィッシュボーンとしたことで、乗り心地の向上と操縦安定性を高い次元で両立させている。この強靱なボディは静粛性の向上にも貢献しており、フロアサイレンサーの増加、遮音材の見直しなどと相まって走行中の不快なノイズを大幅に削減し、加えてドアの開閉音も吟味して重厚感を高めている。また、ボディ表面の段差を減らし、床下を含むボディ回りの走行風の流れを整えることで空気抵抗も軽減。風切り音を低減するとともに高速域での燃費向上を図っている。



床下整流



ゆとりのラゲッジスペース



走りのよさを表現、よりエモーショナルに — エクステリア



バイ・ビームLEDヘッドランプ、スマートエントリー&スタートシステムを全車標準装備

プリウスが受け継いできたトリアングル・シルエットにTNGAによる低重心パッケージが加わり、一段とエモーショナルなスタイルへと変身。ひと目でプリウスと分かるシンボリックなデザインを各所に配し、先進的なイメージで仕上げられている。ダイナミックな動きを感じさせるヘッドランプ、過ぎ去る姿を印象づけるシャープなデザインのテールランプなどに加え、風の流れをイメージしたルーフ後端とクォーターピラー周辺の造形も見逃せない。全長と全幅はやや大きくなった一方でルーフ高は20mm下げられ、低重心スタイルを強調。先進性を感じさせる未来的なフォルムと、流れるようなボディラインを高い次元でバランスさせ、独自のスタイリングをつくり上げている。

人にやさしい、先進性と温かみ — インテリア

先進性を感じさせるとともに、乗る人に優しいデザインや素材選びがなされてきたインテリアは新型でも踏襲されている。センターに置かれた4.2インチのTFTツインメーターはカラー液晶により視認性が高まり、視線を動かさずに主要情報を確認できるヘッドアップディスプレイも用意されている。ボンネットフード後端を62mmも下げたことで前方視界がよくなり、安全性の向上にも貢献。フィット感に優れたシートはコーナリング時もしっかり身体を支え、快適な移動を約束してくれる。人に優しい造形がなされたインテリアは素材も吟味され、高輝度シルバーのモールやメッキ加飾によりクオリティを一段とアップ。プレミアム感さえ漂う仕上がりになっている。



広々とした視界、昇温・降温抑制機能付ステアリングホイールを設定



置くだけ充電も設定



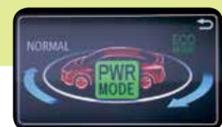
S-FLOWで素早く快適な室内を実現

40.8km/ℓの低燃費 — 楽しいエコドライブ

1.8ℓガソリンエンジンは燃焼室の改良などにより、最大熱効率40%を達成。燃料からより多くのエネルギーを引き出すことで、十分なパワーと低燃費を両立させている。さらに駆動用バッテリーの高性能化、電動モーターの高出力化によりハイブリッドシステム全体のパフォーマンスアップを図り、JC08モード燃費は最大で40.8km/ℓという低燃費を実現している。そのエコドライブを支えるシステムも充実しており、モーターのみでの走行を優先させるEVモードやドライブモード選択スイッチに加え、エアコンの調整も可能なエコ空調モードスイッチも新設。見やすくなったセンターディスプレイの表示とともに、楽しみながら快適にエコドライブをこなすことができる。



1.8ℓ 2ZR-FXE エンジン



215/45R17 タイヤ&アルミホイールを装着した「ツーリングセレクション」